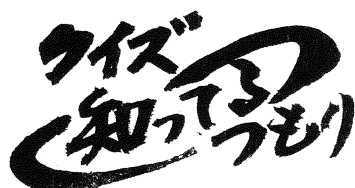
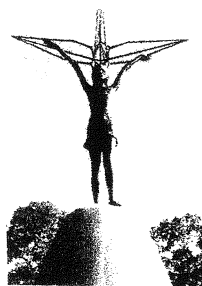


2025(令和7)年5月3日(土)発行

○佐々木禎子さんは2歳の時、広島市の爆心地から1.7キロで被爆、黒い雨に打たれても元気に成長。しかし小学6年生の時に白血病で広島赤十字病院に入院。「千羽鶴を折れば病気は治る」と信じて紙鶴を折りますが、8カ月間の入院の末1955(昭和30)年10月25日12歳で死去する。昭和33年広島平和記念公園に建立された「原爆の子の像」▲

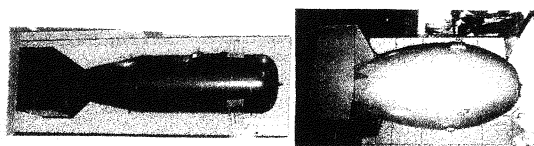


伝えたい ヒロシマ・ナガサキのこと

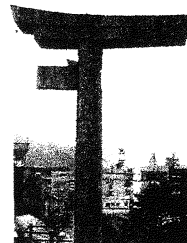
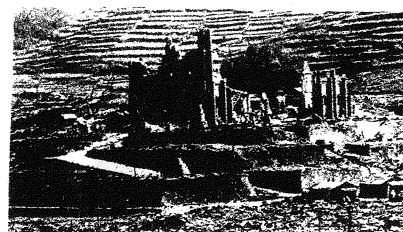
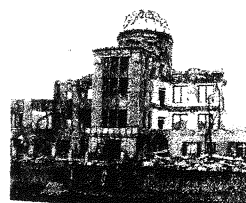
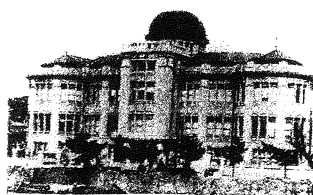
今年2025年は、終戦や世界史上唯一の広島と長崎への「原子爆弾投下」から80年です。そこでいろいろな本などからクイズを作ってみました。戦争と平和を若い人達に伝えていきましょう!

- ①第二次世界大戦末期、アメリカの原子爆弾の開発・製造計画を(①)計画という。
- ②「原爆の父」と言われ、(①)計画の科学部門のリーダーが(②)で、昨年映画化された。
- ③1945年7月16日に初の原爆実験が行われたのは、米国(③)州のトリニティ(アラモゴード)だった。
- ④広島へ投下した原子爆弾は「リトルボーイ」とよばれるウランウム爆弾で、搭載したB-29エノラ・ゲイ号は8月6日午前1時45分、マリアナ諸島の(④)島を出撃する。
- ⑤広島への原子爆弾投下は、快晴の天候が確実とされた1945年8月6日(⑤)曜日、一日のうちで多くの市民が屋外にいる午前8時15分の時刻が狙われた。
- ⑥広島投下の目標地は市中央のT字形の(⑥)橋だったが、約300m南東の島医院上空で炸裂した。
- ⑦広島は西日本の中心で軍事施設も多く、(⑦)戦争では大本営が置かれた軍都で投下の目標となった。
- ⑧広島以外の原爆投下の目標都市は、新潟・小倉・長崎・そして古都の(⑧)も目標になっていた。
- ⑨アメリカ軍は原爆投下の訓練のため、(⑨)に投下したファットマンと大きさや重さが同じで中身がTNT火薬の「模擬原爆」を全国30都市に49発投下した。福島県では7月末、いわき市に3発(死者3名)、郡山市に2発(死者39名)、福島市に1発(死者1名)を投下した。
- ⑩「広島県物産陳列館」の職員30名は全員が死亡。それが原爆と平和のシンボルの「(⑩)」です。
- ⑪原爆の犠牲者は年末まで、広島でおよそ(⑪)万人、長崎でおよそ7万人と推定されています。
- ⑫原爆の威力は、5千度の巨大火球による<熱線>、空気の大膨張による<⑫>と<放射能>の3つ。
- ⑬8月9日の原爆投下は(⑬)市が目標だったが曇空で投下できず、長崎に変更されて午前11時2分に投下。
- ⑭<右>の写真は、長崎の爆心地から北東500mの破壊された(⑭)天主堂。山王神社の片足の鳥居。
- ⑮古関裕而作曲の歌謡曲「長崎の鐘」は、長崎医科大学助教授(⑮)の被爆体験や救護活動の記録集をもとにサトーハチローが作詞した。
- ⑯長崎「平和祈念像」は1955年彫刻家(⑯)が制作。閉じた眼は犠牲者への冥福を、右手は原爆の脅威、左手は平和の願いを表現している。

<投下された2つの原子爆弾>



広島のリトルボーイ 長崎のファットマン



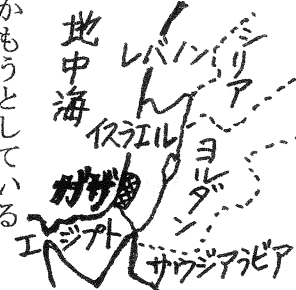
<クイズ答> ①マンハッタン、②オッペンハイマー、③ニューメキシコ、④テニアン、⑤月、⑥相生あいおい、⑦日清、⑧京都 ⑨長崎、⑩原爆ドーム、⑪14、⑫爆風、⑬小倉、⑭浦上、⑮永井隆、⑯北村西望

会員さんの作品

《俳句連作》 **生きるガザ** 『ガザ日記』に基づいて 中村晋 (会員・福島市)

中村晋さんは、反戦平和、護憲の俳人金子兜太とた氏の愛弟子ですが、このほどアーテイフ・アブー・サイフ氏の著書『ガザ日記』を読み、次のような俳句を連作。二〇二三年一〇月のイスラエル軍によるガザ侵攻、そしてシエノサイド（大量虐殺）を世界も自分も見捨てているのではと自責の念に駆られて詠まれました。

ちぎれた手が朝日をつかもうとしている
蠅のように殺され蠅に寄り添われる
驢馬が曳く荷から人の手脚がこぼれた
少女を掘り出す永眠から起こさぬよう
子どもたちが勉強するので、学校を爆撃
「薬は食後に」そもそも食べるものがない
砂に書いては子に母が字を教えている
ガザの子ら腕に名を書く死後のため
パン屋が焼けたのでみなパンを焼き始めた
パンへ水へどこも人々の列列
夜動けば撃たれる
難民が難民に道を訊いている
寒すぎて胃が痛いオリーブの木が揺れている
テント村に薪が燃える匂い、朝だ
死者生者を曇天のガザに置いて去る



福島大学行政政策学類教授 金井光生著 福島県九条の会（代表今野順夫・会員）発行

『鈴木安蔵・鈴木義男と日本国憲法の誕生 福島県出身の「ダブル鈴木」』

憲法制定に大きく貢献した福島県の二人の鈴木、安蔵（小高区）と義男（白河市）の業績を分析。

A4判・62頁。ご希望の方は事務局山崎健一にお申し込み下さい。

1部500円。郵送の場合は送料込みで1,000円（郵便切手でも可）です。



『小高幻流』第6号・2025年4月発行・編集：すぎた和人（会員・小高区）

小高区の画家・写真家・ルポライターのすぎた和人さんが、小高の復興を願いながら編集発行しています。今号では小高の人々についてと、昨年8月開催の「鈴木安蔵生誕120周年・鈴木安蔵を語る会」での憲法学者金子勝さんの講演「なぜ、今、鈴木安蔵先生なのか」を特集しています。季刊で年4回発行。定期購読4回分4400円。申込先TEL090-8817-1700すぎた和人。

《事務局より》

6月15日（日）総会にご出席ください。

4月6日の事務局会に久々に出席しました。『九条はらまち』の検討では原案作成者の私の前では、皆さん遠慮してあまり異議は出ませんでした。20年間421号までで、私も原案の作成はもうそろそろ終えようかと思っています。

第14回9条の会東北交流会が5月24日（土）盛岡市で開催されます。弁護士猿田佐世さんの記念講演。また経験交流会では福島県の9条の会から「はらまち九条の会」が選ばれ、活動の報告を行います。20年間の、特に独自の取り組みについてアピールしてきます。（山崎健一）

「はらまち九条の会」事務局

○会長：平田慶肇（原町区）TEL0244-24-1211

○副会長：田中徳雲（小高区）TEL090-2796-4066

○事務局長：早坂吉彦（原町区）TEL090-2975-2508

○事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453 Eメール：yamazakiken1@gmail.com

○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

○番場恵子（原町区）TEL0244-22-0715

○石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037

○若松麟二（原町区）TEL090-4929-7227

○志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524

○大浦祥見

（原町区）TEL24-0704

○佐藤喜彦（原町区）

○すぎた和人（小高区）TEL090-8817-1700

みかんの花が咲いている
思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船がとおく すすんでる

みかんの花咲く丘
♪